

一 次のようにしてできた漢字を、
書きましょう。

から二つずつ選んで
(10点×6問)

点

(1) 目に見える物の形を、具体的にえがいたもの。〈例〉馬

川

雨

(2) 目に見えない事がらを、印や記号を使って表わしたもの。

〈例〉上

下

中

(3) 漢字の意味を組み合わせたもの。〈例〉鳴

明

休

明 川 下 中 雨 休

二 次の漢字の音を表す部分を□に書きましょう。(10点×4問)

〈やり方〉粉…分

(1) 格…各

(2) 銅…同

(3) 持…寺

(4) 清…青



漢字の成り立ちには、
音を表す部分と、意味を
表す部分を組み合わせ
たものがあるよ。

一次の漢字の成り立ちを下から選んで、記号を書きましょう。(10点×5問)

- | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| (5) | (4) | (3) | (2) | (1) |
| 森 | 門 | 三 | 館 | 羊 |
| (ウ) | (ア) | (イ) | (エ) | (ア) |

ア 目に見える物の形を、具体的にえがいたもの。
〈例〉山・火

イ 目に見えない事がらを、印や記号を使って表したもの。〈例〉上・下

ウ 漢字の意味を組み合わせたもの。
〈例〉鳴・明

エ 音を表す部分と意味を表す部分を組み合わせたもの。
〈例〉草・粉

点

二 □に当てはまる漢字を書きましょう。また、――の漢字は、音を表す部分と意味を表す部分を組み合わせた漢字です。それぞれの部分を書きましよう。(10点×5問)

(1)

時
間

じ かん

を守って行動する。

音を表す部分

意味を表す部分

日	寺
---	---

(完答10点)

チャレンジ!
同じ音を表す部分が使われている他の漢字を考えて書いてみよう。



持 詩 待

チャレンジ!
同じ意味を表す部分が使われている他の漢字を考えて書いてみよう。

(2)

この荷物は

軽

かる

音を表す部分

意味を表す部分

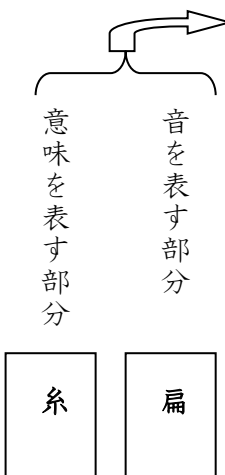
車	圣
---	---

(完答10点)

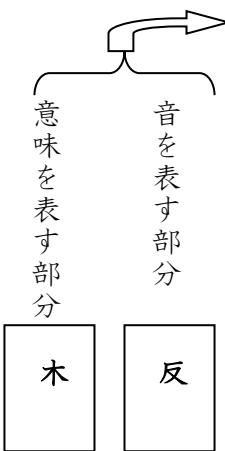
転 輪 輸

一 次の――の漢字は、音を表す部分と意味を表す部分を組み合わせた漢字です。それぞれの部分を書きましょう。

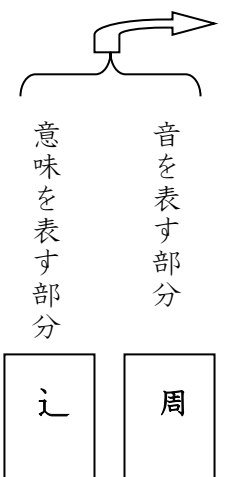
(1) 編集会議を開く。



(2) 黒板に絵をかく。



(3) 週刊誌を買って読む。



二 次の――の漢字の成り立ちを、漢字辞典を使って調べましょう。

(1) 子牛

牛の頭部の形から。

(2) 週末

木の上の方に一（印）をつけて「すえ」を表わす。

(3) 休日

人が木によりかかって休むようすから。

(4) 晴天

日と青（セイ）で「はれ」を表わす。

一次の文について、正しい敬語を から選び、○をつけましょう。(10点×5問)

点

- (1) 先生が、教室に
○いらっしゃいました
来ました。

- (2) わたしの母の質問に、校長先生が
○お答えになりました
申されました。

- (3) 社長がディナーを
食べる
○めしあがる。

- (4) となりの家の木村さんから、おみやげを
もらった
○いただいた。

- (5) 明日、お宅に
○うかがいます
行きます。

二 ——— の言葉を敬語に書き直しましょう。(10点×5問)

(解答例) () お聞きしました ()

() うかがいました ()

- (1) 先生の子どものころの夢を聞きました。

() おっしゃること ()

- (2) ゲストティーチャーの言うことを正確にメモする。

() お帰りになりました ()

() 帰られました ()

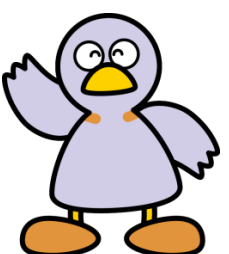
- (3) 先生は、もう帰りました。

() お持ちします ()

- (4) わたしが荷物を持ちます。

() くださる ()

- (5) 校長先生が、賞状をくれる。



相手や話題になっ
ている人をうやまう気持
ちを表すときは、
「尊敬語」
自分や身内の者の動
作をけんぞんして言う
ことで、その動作を受け
る人への敬意を表す
きは、
「けんじよう語」
を使うよ。

一 ―――― の言葉を敬語に直し、 に文を書き直しましょう。

(15点×5問)

点

(1) 少し、待ってて。

少し、お待ちください。

(2) 先生が、映画を見る。

先生が、映画をご覧になる。

(3) 校長先生が話す。

校長先生が、お話しになる。
(おっしゃる)

(4) 私の考えを言います。

私の考えを申し上げます。

(5) お客様を見送る。

お客様をお見送りする。

ヒントの言葉！
(特別な言葉を使った言い方)
「ごらんになる。」
「申し上げます。」



二 職員室にいらっしゃる先生に、プリントを提出しに来たことを、
実際に話すように書いてみましょう。(25点)

(例) 失礼します。○年○組の△△△△です。□□□□先生は、
いらっしゃいますか。課題のプリントを提出しにきました。

一次の文で、敬語が使われているところに線を引きましょう。(10点×4問)

(1) コンサートには、もう行かれましたか。

(2) 明後日、ご自宅にうかがいます。

(3) この機会の操作は、私がご説明します。

(4) どうぞ、たくさんめし上がってください。



ふだんの生活の中でも敬語を使えるようにしよう。

点

二次のそれぞれの表現は、どのように言いかえるとよいか考え、書きかえましょう。(15点×4問)

(1) 家に来客があったとき

「お父さんは、今出かけてて。山本さんが来たって、言っておきます。」

(例) 父は、今出かけております。山本様がいらっしゃったと伝えておきます。

(2) 電話をかけたとき

「もしもし。山口だけど、たかし君は。」

(例) もしもし。山口ですが、たかし君はいらっしゃいますか。(いますか。)

「はい。…だれですか。…お母さんは、今、いません。帰ってきたら、田中さんに電話するように言います。」

(例) はい。…どちら様ですか。…母は、今、おりません。帰りましたら、

田中様に電話をするように伝えます。

(差し上げるように)

(3) 全校児童に、委員会の報告をするとき

「生活委員会で決まったんだけど、今月の目標は『くつそろえをする』だよ。」

(例) 生活委員会で決まったことですが、今月の目標は『くつそろえをする』です。

() 年 () 組 () 番 名前 ()

一次の文中の ——— の漢字の読みを書きましょう。(10点×8問)

(1) 人間(げん)にとって、時間(かん)は大切な財産である。

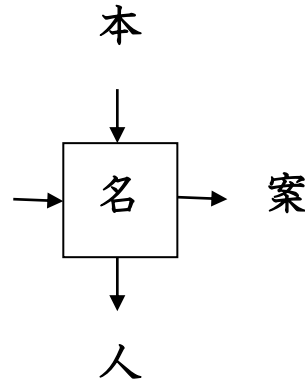
(2) 祖父が学んだ読本(とく)を借り、音読(どく)してみた。

(3) 直接(ちよく)会って、正直(じき)に話し、謝罪する。

(4) 姉はアメリカに留学(りゆう)中で、しばらく留守(る)だ。

二例にならって、□に当てはまる漢字を入れ、それぞれ四つの熟語(じゆく)を作りましょう。(10点×2問)

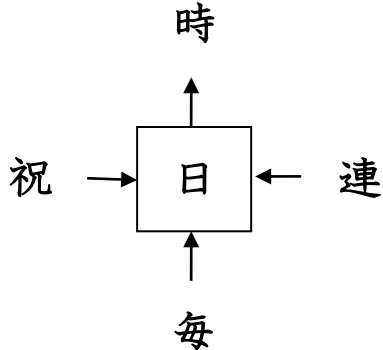
〈例〉



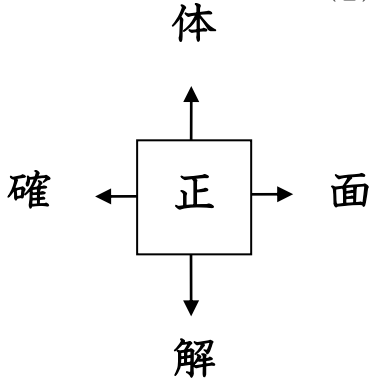
漢字には、複数の音をもつものがあるよ。
漢字辞典も使って調べよう。



(1)



(2)



点

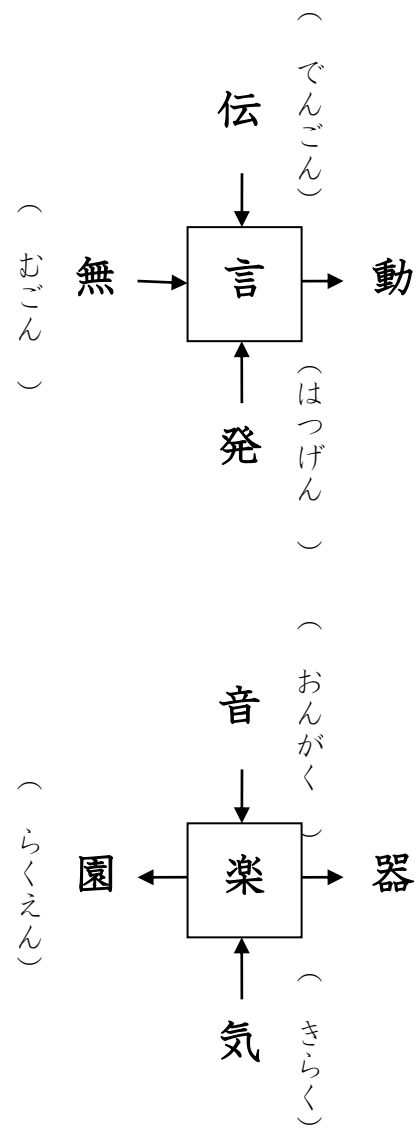
() 年 () 組 () 番 名前 ()

一 真ん中の□に当てはまる漢字を入れ、それぞれ、四つの熟語を作りましょう。また、できた熟語の読み方を () の中に書きましょう。

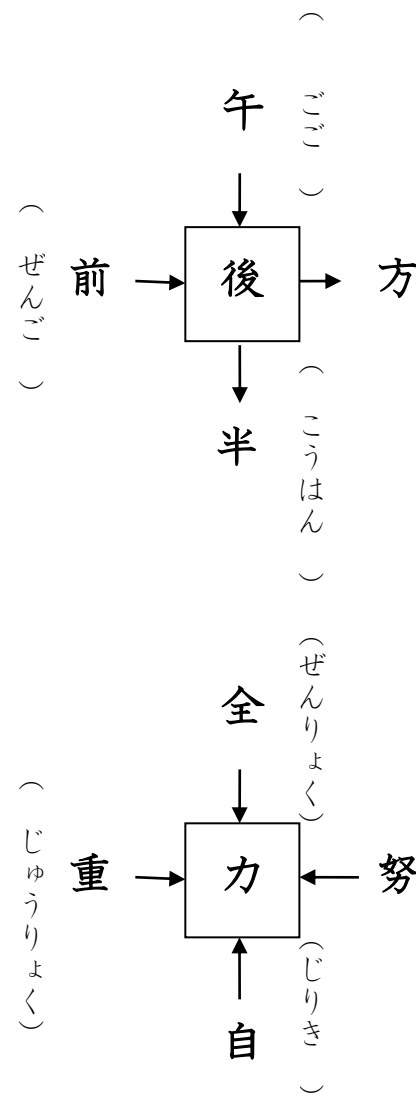
(4点×25問)

点

(1) (げんどう)

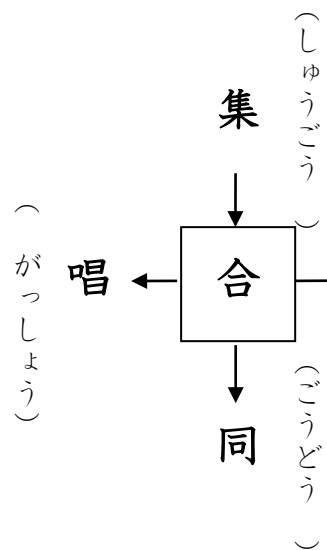


(3) (こうほう)



(4) (どりよく)

(5) (がっしゅう)



熟語は、矢印の方向に読むよ。
わかるかな？



一 複数の音をもつ漢字を使った問題を作ってみましょう。

(1)

(2)

〈問題の作り方〉

- ① 答えになる漢字を決める。
- ② 答えになる漢字を使った熟語を二つから四つ考える。
- ③ まわりの口に漢字を書く。
- ④ 読む方向に矢印を書く。

できたら、友達やお家の人に解いてもらおう。



ヒント！
漢字辞典で音が複数ある漢字を見つけてみて。
こんな漢字を使ってみてはどうか。
「下(ゲ、カ)」
「競(キョウ、ケイ)」
「生(セイ、ショウ)」
「便(ビン、ベン)」

二 次の特別な読み方をする言葉の読み方を()に書きましょう。
また、その言葉の中から三つ選んで、文作りをしてみましょう。

- | | |
|--------|-------|
| (きょう) | (とけい) |
| ・今日 | ・時計 |
| (じょうず) | (あす) |
| ・上手 | ・明日 |
| (はつか) | (おとな) |
| ・二十日 | ・大人 |
| (けさ) | (はかせ) |
| ・今朝 | ・博士 |
| (ことし) | (きのう) |
| ・今年 | ・昨日 |
| (まじめ) | (めがね) |
| ・真面目 | ・眼鏡 |

(例) ピアノの発表会で上手に演奏することができた。

(例) わたしのおじいちゃんは、眼鏡をかけている。

(例) 昨日、友だちと公園で遊んだ。

俳句は、五・七・五の十七音で感動を伝えます。生活の中で気づいたことやおどろいたことを、俳句にして伝えてみましょう。

☆次の俳句を声に出して読んでみましょう。

名月や池をめぐりて夜もすがら

まつおばしやう
(松尾芭蕉)

ひつぱれる糸まつすぐや甲虫

(ひつぱれる) (まつすぐ) かぶとむし
(高野素十)

一 生活の中で気づいたことやおどろいたことを、短い文章で書きとめましょう。

二 文章に書いたことを、五・七・五の十七音で俳句にしましょう。

三 俳句では、「季語」という季節を表す言葉を使います。
(例)以外の「季語」を集めてみましょう。

(例)

冬	秋	夏	春
白鳥 大みそか さざんか など	運動会 赤とんぼ コスモス など	花火 せみ 泳ぎ など	あたたか つばめ ひな祭り かえる たんぽぽ など
雪 大根 スキー 手ぶくろ 北風	すずむし すすき 稲刈り 台風 冬じたく	トマト 夕立 あせ うちわ	桜 入学 花見 ひばり 菜の花



小さな「つ」
やのばす
音、「ん」も
一音と数え
るよ。

☆ 俳句の表現を工夫しよう。

空き地にはひまわりさいてきれいだな

「ひまわりさいてきれいだな」のところをたとえを使って
言いかえてみましょう。

空き地にはひまわりたちが

(例) 大きすぎ

俳句では、「さいて」のように想像できる言葉や、「きれいだな」のようなよみ手の気持ちを直接言い表す言葉は、できるだけ使わずに表現するといひよ。

この句は、ひまわりを人のようにたとえてみよう。



へ表現の工夫のポイント

- ① 言葉を選ぶ。(たとえ、色、音など五感を使って)
- ② 言葉の順序を工夫する。(順序を入れかえてみると印象がちがいます。)
- ③ どの文字で書き表すかを考える。(ひらがな、カタカナ、漢字)
- ④ 「は」「が」「も」「を」「へ」「に」などの使い方を考える。
(一文字ちがいで思い浮かぶ様子が変わります。)

☆ 俳句①(前のプリント)で作った自分の俳句の表現を工夫してみよう。

作った俳句は友達と読み合おう。感想も伝えるといいね。



一 「飛び上がる」のような、「飛び——」という言葉を集め、意味を調べましょう。また、その言葉を使って短い文を作りましょう。
(10点×4問)

〈解答例〉

(1) (飛 び) 回 る

文	意味
ちようちようが空を飛び回る	空中をあちこち飛ぶ。

(2) (飛 び) こむ

文	意味
プールに飛びこむ。	勢いよく身をおどらせて中に入る。

(3) (飛 び) おりる

文	意味
高いところから飛びおりる。	身をおどらせて高いところからおりる。

(4) (飛 び) 乗 る

文	意味
電車で飛び乗る。	勢いよく身をおどらせて乗る。

二 次の言葉は、結び付くとどんな複合語になるでしょう。
(10点×6問)

(1) 昼 + 休み ↓

昼休み

(2) 消費 + 税 ↓

消費税

(3) ビデオ + カメラ ↓

ビデオカメラ

(4) 年賀 + はがき ↓

年賀はがき

(5) 紙 + コップ ↓

紙コップ

(6) 電子 + メール ↓

電子メール



「飛び——」
という言葉は、
まだまだたく
さんあるよ。
辞書で調べて
みよう。

点

() 年 () 組 () 番 名前 ()

一 の中の複合語は、(1)から(6)のどの組み合わせのグループに入るか考えましょう。(5点×12問)

点

オレンジ色 ブックトーク ピアノ教室

放送室 あめ玉 花火大会 山登り

スーパーコンピュータ 再建計画 音読カード

歯ブラシ 時間切れ

(1) 和語と和語の組み合わせ (あめ玉) (山登り)

(2) 漢語と漢語との組み合わせ (放送室) (再建計画)

(3) 外来語と外来語との組み合わせ (ブックトーク) (スーパーコンピュータ)

(4) 和語と漢語との組み合わせ (花火大会) (時間切れ)

(5) 和語と外来語との組み合わせ (オレンジ色) (歯ブラシ)

(6) 漢語と外来語との組み合わせ (ピアノ教室) (音読カード)

二 「手」がつく複合語を集めましょう。

(1～5個10点、6～10個20点、11個以上40点)

〈例〉手ぶくろ

手品、手鏡、手まねき、両手、手遊び、など



「手」を辞典で引いてみるとたくさん言葉が見つかるよ。

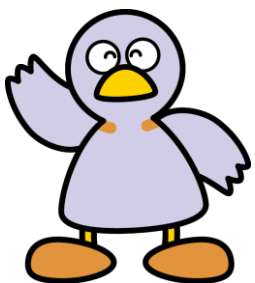
一 次の複合語を声に出して読み、読み方を()に書きましょう。また、その中で元の言葉と発音が変わるものには、
□に○印を付けましょう。
(読み4点×12問 ○4点×8問)

点

- | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| (10) 筆箱
(ふでばこ) | (7) 白ばら
(しろばら) | (4) 春雨
(はるさめ) | (1) 風向き
(かざむき) |
| ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| (11) 西日
(にしび) | (8) 白波
(しらなみ) | (5) 雨上がり
(あめあがり) | (2) 風下
(かざしも) |
| ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| (12) 昔話
(むかしばなし) | (9) 野原
(のほら) | (6) 雨水
(あまみず) | (3) 朝日
(あさひ) |
| ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |

二 次の複合語を□に漢字で書きましょう。また、読み方を()に書きましょう。
(5点×4問)

- | | | | | | | | | | | | |
|--|------------------|--------------------|--|---|---|--|---|---|--|---|---|
| (4) あめ + おと
↓ | (3) ふね + たび
↓ | (2) ほとけ + こころ
↓ | (1) こめ + たわら
↓ | | | | | | | | |
| <table border="1"><tr><td>雨</td></tr><tr><td>音</td></tr></table> | 雨 | 音 | <table border="1"><tr><td>船</td></tr><tr><td>旅</td></tr></table> | 船 | 旅 | <table border="1"><tr><td>仏</td></tr><tr><td>心</td></tr></table> | 仏 | 心 | <table border="1"><tr><td>米</td></tr><tr><td>俵</td></tr></table> | 米 | 俵 |
| 雨 | | | | | | | | | | | |
| 音 | | | | | | | | | | | |
| 船 | | | | | | | | | | | |
| 旅 | | | | | | | | | | | |
| 仏 | | | | | | | | | | | |
| 心 | | | | | | | | | | | |
| 米 | | | | | | | | | | | |
| 俵 | | | | | | | | | | | |
| (あまおと) | (ふなたび) | (ほとけこころ) | (こめたわら) | | | | | | | | |



身の回りには複合語がたくさんあります。
教科書や新聞などの中から複合語をさがしてみても、辞書で意味を調べてみましょう。

一次の言葉を和語・漢語・外来語に分けてみましょう。(5点×12問)

ふるさと 科学 ラッシュ 人

相当 予想 スピード 過ごす

多い スイミング 帰省 スプーン

和語 (ふるさと) (過ごす) (多い) (人)

漢語 (科学) (相当) (予想) (帰省)

外来語 (ラッシュ) (スピード) (スイミング) (スプーン)

二次の言葉と同じ意味の和語や漢語、外来語を□から選んで書きましょう。

(5点×8問)

(1) ラッシュ (混雑) (2) ホテル (旅館)

(3) 食堂 (レストラン) (4) スイミング (水泳)

(5) 調査 (調べる) (6) 決定 (決める)

(7) 速度 (スピード) (8) さじ (スプーン)

点

スピード 調べる スプーン 混雑

レストラン 水泳 決める 旅館



一次の文中の――の言葉の漢語と和語の読み方を書きま
しょう。(10点×10問)

点

(1) 水辺の生物の観察をする。(せいぶつ)
生物は、いたみやすいので早く食べてください。(なまもの)

(2) 風車小屋のまわりに、花がきれいにさいている。(ふうしゃ)
弟が風車を持って、楽しそうに遊んでいる。(かざぐるま)

(3) 色紙に、野球選手のサインを書いてもらった。(しきし)
色紙で、つるを折った。(いろがみ)

(4) 先生は、書道の大家だ。(たいか)
アパートの大家に、家賃をはらう。(おおや)

(5) 長い年月がたった。(ねんげつ)
年月を重ねる。(としつき)

二身の回りの文章から、和語・漢語・外来語をさがしてみましよう。

和語 (例) 山、川、空、遊ぶ、走る など

漢語 (例) 学校、先生、音楽、河川 など

外来語 (例) テレビ、ラジオ、チャイム、チョーク
ズボン、スカート など



同じ漢字でも、漢語と和語で意味がちがう言葉もあるよ。辞書で調べてみよう。

() 年 () 組 () 番 名前 ()

☆次の各文の□に当てはまる漢字を、() から選びましょう。

(10点×10問)

一 (刊・肝・干・幹・汗)

① 毎週水曜日に発売される週

刊誌。

② この海は、満の差が大きい。

干

③ 新線で大阪まで行く。

幹

④ 肝臓の検査入院をする。

肝

⑤ 運動による発汗で、水分が失われる。

汗

二 (故・古・湖・個・固)

① 五年ぶりに郷に帰る。

故郷

② 体が液体になる。

固

③ びわ湖は日本一大きい。

湖

④ 人より、団体競技の方がいい。

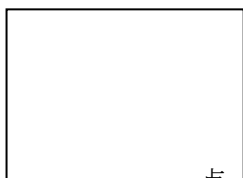
個

⑤ 代エジプトの歴史。

古



どの部分が共通でどんな読み方をしてい
るかな。



() 年 () 組 () 番 名前 ()

☆次の各文の□に当てはまる漢字を、() から選びましょう。

(10点×10問)

一(検・験・陰・剣)

① 刀

剣

をとぐ。

② 身の危

陰

を感じて、避難した。

③ 車を点

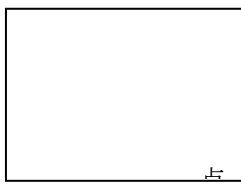
検

する。

④ スイミングスクールに、体

験

入学する。



二(司・飼・詞)

① 学級歌をクラスみんなで作

詞

する。

②

飼

育係が、うさぎにえさをやる。



③ テレビ番組の

司

会者。

三(館・官・管)

①

官

庁がたちならぶ町。

② 図書

館

で、本を借りる。

③ 血

管

がすけて見える。

() 年 () 組 () 番 名前 ()

☆次の各文の□に当てはまる漢字を、() から選びましょう。

(10点×10問)

一(生・星・姓・性)

① 生

活科の学習で、町たんけんをする。

② 理科で

星

座の学習をした。

③ 男か女か、

性

別にまるをつけた。

④ 占いで

姓

名判断をしてもらった。

二(士・志・誌・仕)

① 父は毎日、

仕

事で帰りが遅い。

② カ

士

たちのけいこを見学した。

③

志

望する学校に合格した。

④ 雑

誌

の発売が待ち遠しい。

三(群・郡)

① 郡

部から都市部に引っ越す人が増えている。

② しし座流星

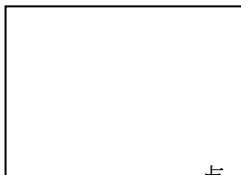
群

を観察する。

共通するのは「君」
だけど、読み方は
「くん」ではない
ね。



共通する部分は
どこで、何て読む
かな。



() 年 () 組 () 番 名前 ()

☆次の部分が表す意味を漢字辞典で調べ、□にあてはまる漢字を書きましよう。

(10点×10問)

【例】イ(にんべん)

人間、人間のおこないや、動作に関する字に用いられる。

体

育の学習で、気分が悪くなったので、少し

休

んだ。

一言(いう・ごんべん)

「言(げん)」をもとにして作られ、言論や表現にかかわる字。

① 学級会の

議

長を務める。

②

討

論

会の学習をした。

③ 日

記

の宿題を忘れてしまった。

二 雨(あめ・あめかんむり)

例にならって
やってみよ
う。



「雨(あめ)」をもとに作られ、天候や気象にかかわる字。

① 大

雪

が降ったので、車のタイヤを冬用にかえた。

②

雲

ひとつない、晴れた日。



③ 修学旅行の二日目は、

雨

となり、かさを使用した。

④ 遠くの方で

雷

が鳴っているので、早めに帰ろう。

() () 年 () () 組 () () 番 名前 ()

☆次の部分が表す意味を漢字辞典で調べ、□にあてはまる漢字を書きましょう。

(10点×10問)

【例】日(ひ・にちへん)

意味 「日(ひ)」をもとにして作られ、天体や気象、時間や明るさにかかわる字。

早

く起きたが、まだ

暗

いので、もう少し寝ることにした。

※日の漢字を使って短文を作り、使った漢字に線を引きましょう。

- ・今日は、火曜日だ。
- ・冬になると、日|が短くなり、暗|くなるのが早|くなる。

一心・り(こころ) ・ りっしんべん)(完答)

意味 「心(こころ)」をもとに作られ、考えたり感情を表したりする心のはたらきにかかわる字。

①

忘

れ物をしたので、

急

いで家にもどった。

②強い

想

いがあれば、相手に

必

ず伝わる。

③登山家が消

息

をたったという

情

報が入った。

④

心

のこもった

応

援(えん)をする。

この中から選んで書こう。



悪 快 忘 息 愛 応 必 急 心 想 志 情

※心・忄の漢字を使って、短文を作り、使った感じに線を引きましょう。(配点なし)

- (例)・悲|しいことに、大事なカギをなくしてしまった。
・早寝・早起き・朝ごはん、これはぼくの習慣|だ。
・命の恩|人に感謝の気持ちを伝える。

☆次の部分をもつ漢字を集め、部分が表す意味を漢字辞典で調べましょう。

【例】土（つちへん）

つちへんの漢字 場 地 坂 城

部分の意味

大地の意味を表す「土（つち）」をもとに作られ、土地や地形にかかわる字。

一 木（きへん）

きへんの漢字

（例）校・森・村・木・本・林・楽・東・来・横・橋・業・根・植・柱・板・様・案・棠・果・
機・械・極・材・札・松・束・梅・標・末・未・桜・格・検・構・査・枝・条・株・机・
雀・封・染・奉・攸・莫

部分の意味

（例）「木（き）」をもとにして作られ、樹木の種類や木材から作られたものにかかわる字。

二 車（くるまへん）

くるまへんの漢字

（例）車・軽・転・軍・輪・輸

部分の意味

（例）「車（くるま）」をもとにして作られ、車の種類や部分・運行にかかわる字。

三 糸（いとへん）

いとへんの漢字

（例）糸・絵・細・紙・線・組・級・終・緑・練・紀・給・結・続・約・経・織・績・絶・素・
総・統・編・綿・糸・絹・紅・縦・縮・純・納

部分の意味

（例）「糸（いと）」をもとに作られ、せんいや織物にかかわる字。

一 各文の漢字の間違いを見つけ、正しく直しましょう。(両方できて10点×10問)

(誤) (正)

① 試合は以外な結果に終わった。

② 異句同音に唱える。

③ 引卒の先生の指示に従う。

④ 政治に感心を持つ。

⑤ 身の危険を感じて避難した。

⑥ 国語の成績がとてもよかった。

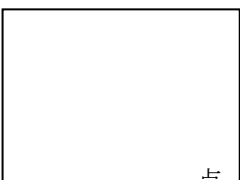
⑦ 近所で映画の撮映があった。

⑧ 作業の後仕末をきちんとしましょう。

⑨ 二学期は心気一転がんばろう。

⑩ 科学の専門家になる。

問	気	仕	映	積	検	感	卒	句	以
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
門	機	始	影	績	険	関	率	口	意



一 各文の漢字の間違いを見つけ、正しく直しましょう。(両方できて10点×10問)

(誤) (正)

⑪ すみずみまで掃事をする。

事

除

⑫ 強風がおさまるまで家で待期する。

期

機

⑬ ぼくと弟は対象的な性格だ。

象

照

⑭ 短刀直入に話を切り出す。

短

単

⑮ 避難民の受け入れ体勢を整える。

体

態

⑯ わたしの得技は、一輪車に乗る事です。

得

特

⑰ 模形の飛行機を作る。

形

型

⑱ 明日は家庭訪問で先生がいらっしゃる。

門

問

⑲ 完単な問題を解く。

完

簡

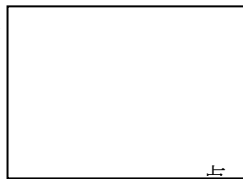
⑳ 礼義正しく近所の人に接する。

義

儀

() 年 () 組 () 番 名前 ()

一 線の部分を漢字で表したときに、当てはまる漢字にまるをつけましょう。
(5点×20問)



- ① 郵便をおくる。
② 弓で矢をいる。
③ あたたかな日。
④ 計算があう。
⑤ 年があける。
⑥ カメラでうつす。
⑦ 税金をおさめる。
⑧ 授業におくれる。
⑨ あつい本。
⑩ クラス委員におす。
⑪ しょう数の学習。
⑫ 新しい家がたつ。
⑬ 小鳥がなく。
⑭ 選手い外は休み。
⑮ 目がさめる。
⑯ 身長をはかる。
⑰ 司会をつとめる。
⑱ 間違いをなおす。
⑲ 朝はやく起きる。
⑳ 気かわる。
- (送る・贈る)
(射る・入る・要る)
(温か・暖か)
(会う・合う)
(明ける・開ける)
(移す・写す・映す)
(収める・納める・修める)
(遅れる・後れる)
(厚い・熱い・暑い)
(押す・推す)
(少・小)
(建つ・立つ)
(泣く・鳴く)
(以・意)
(覚める・冷める)
(計る・測る・図る・量る)
(努める・勤める・務める)
(治す・直す)
(速く・早く)
(変わる・代わる)

一 「不」「未」「無」「非」のいずれかを使って、下の語を打ち消す漢字三字の熟語を完成させましょう。

（10点×10問）

① 無 欠席のため、皆勤賞となった。

② 私は指先が 不 器用です。

③ このくらいの練習では、まだまだ 不 十分だ。

④ このあたりの土地は、 未 開発である。

⑤ 宿泊先では、 非 常口を確認しましょう。

⑥ 入試で 不 合格にならないように、熱心に勉強する。

⑦ 不 気味なくらい静まっている。

⑧ その話については、 未 決定です。

⑨ 世の中には 不 思議な現象がたくさんある。

⑩ お金を落として 無 一文になってしまった。



二字の漢字からできている熟語の成り立ちには、次のようなものがあります。

ア 似た意味の漢字の組み合わせ（岩石・河川）
 イ 意味が対になる漢字の組み合わせ（上下・左右）
 ウ 上の漢字が下の漢字を修飾する関係にある組み合わせ（鉄橋・親友）
 エ 「くを」「く」に当たる意味の漢字が下に来る組み合わせ（預金・投球）

一次の熟語の読みを横の「」に書き、下の（ ）の中に、アからエのどの組み合わせにあてはまるか書きましょう。（5点×20問）

【例】 「はくし」

白紙（ウ）

「げきとつ」

「ぼうふう」

点

① 激突（ウ）

② 防風（エ）

「きじょう」

「かんだん」

③ 机上（ウ）

④ 寒暖（イ）

「きようそう」

「しろくろ」

⑤ 競争（ア）

⑥ 白黒（イ）

「きこう」

「ちえん」

⑦ 寄港（エ）

⑧ 遅延（ア）

「くらく」

「ききょう」

⑨ 苦楽（イ）

⑩ 帰郷（エ）

「ちよくせん」

「おうとう」

⑪ 直線（ウ）

⑫ 応答（ア）

「はつゆめ」

「しゅつじょう」

⑬ 初夢（ウ）

⑭ 出場（エ）

「あんこく」

「かくだい」

⑮ 暗黒（ア）

⑯ 拡大（ア）

「えきまえ」

「めいあん」

⑰ 駅前（ウ）

⑱ 明暗（イ）

「ゆうしゅう」

「げきつう」

⑲ 優秀（ア）

⑳ 激痛（ウ）

二字の漢字からできている熟語の成り立ちには、次のようなものがあります。

ア 似た意味の漢字の組み合わせ（岩石・河川）
イ 意味が対になる漢字の組み合わせ（上下・左右）
ウ 上の漢字が下の漢字を修飾する関係にある組み合わせ（鉄橋・親友）
エ 「くを」「くに」に当たる意味の漢字が下に来る組み合わせ（預金・投球）

一次の熟語の読みを横の「」に書き、下の（ ）の中に、アからエのどの組み合わせにあてはまるか書きましょう。

（5点×20問）

【例】 「とざん」

登山（エ）

点

「さっそく」		「かいてん」	
① 早速（ア）		② 回転（ア）	
「きよぼく」		「ちゃくりく」	
③ 巨木（ウ）		④ 着陸（エ）	
「うむ」		「よきん」	
⑤ 有無（イ）		⑥ 預金（エ）	
「おんすい」		「ただい」	
⑦ 温水（ウ）		⑧ 多大（ア）	
「りきさく」		「さいこ」	
⑨ 力作（ウ）		⑩ 最古（ウ）	
「かいへい」		「こうてい」	
⑪ 開閉（イ）		⑫ 高低（イ）	
「びてん」		「かんまん」	
⑬ 美点（ウ）		⑭ 干満（イ）	
「かんげき」		「あくりよく」	
⑮ 観劇（エ）		⑯ 握力（ウ）	
「ちゅうや」		「しゅうしよく」	
⑰ 昼夜（イ）		⑱ 就職（エ）	
「たんしん」		「えんどう」	
⑲ 短針（ウ）		⑳ 沿道（エ）	

() 年 () 組 () 番 名前 ()

一 □にあてはまる漢字を□の中から選び、似た意味の漢字の組み合わせ
の熟語を完成させましょう。
(5点×10問)

② 学 習

④ 身 体

⑦ 通 行

⑨ 衣 服

② 救 助

⑤ 生 産

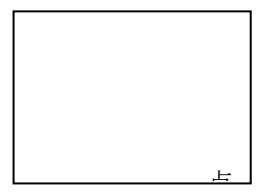
⑧ 会 合

⑩ 寒 冷

③ 付 着

⑥ 関 係

衣 習 寒
合 育 合
着 身 系



訓読みにして
考えてみよう。



使わない漢字
は二つあるよ。

二 □にあてはまる漢字を□の中から選び、反対の漢字の組み合わせの熟語を完成させましょう。
(5点×10問)

① 上 下

④ 天 地

⑦ 出 入

⑨ 善 悪

② 新 旧

⑤ 売 買

⑧ 多 少

⑩ 遠 近

③ 増 減
⑥ 後 先

少 減 下
天 出 善



☆ 次の文章を読んで、答えましょう。

ずんずんろうかを進んで行きますと、今度は水色のペンキぬりの戸がありました。
「どうも変なうちだ。どうしてこんなにたくさん戸があるのだろう。」

「これはロシア式だ。寒いとこや山の中はみんなこうさ。」

そして二人はその戸を開けようとしみますと、上に黄色な字でこう書いてありました。

どうけん

㊦ 【当軒は注文の多い料理店ですから、どうか[㊦]そこはご承知ください。】

「なかなかはやってるんだ。こんな山の中で。」

「それあそうだ。見たまえ、東京の大きな料理屋だって大通りには少ないだろう。」

二人は言いながら、その戸を開けました。すると、そのうら側に、

【注文はずいぶん多いでしょうが、どうかいちいちこらえてください。】

「これはぜんたいどういうんだ。」

一人のしんしは顔をしかめました。

※「注文の多い料理店」 宮沢 賢治

(一) ろうかを進んでいくと、何がありましたか。八文字を書きぬきましょう。

水	色	の	ペ	ン	キ	ぬ	り	の	戸
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(二) 二人は、たくさん戸がついているのはなぜだと思っていますか。

四文字を書きぬきましょう。

ロ	シ	ア	式
---	---	---	---

の建物だから

(三) ㊦が指していることを、五文字で書きぬきましょう。

注	文	の	多	い
---	---	---	---	---

こと

みやざわ けんじ
宮沢賢治の作品を読んでみ
よう。

「銀河鉄道の夜」や

「雪わたり」などがあるよ！



(四) ㊦を見て、二人はどう思いましたか。二十字程度で書きましょう。

こ	ん	な	山	の	中	で	も
な	か	な	か	は	や	っ	て
い	る	。	20				

☆ 次の文章を読んで、答えましょう。

おだわら

あたま

けいべんでつづふせつ

りようへい

小田原・熱海間に軽便鉄道敷設の工事が始まったのは、良平の八つの年だった。良平は毎日村外れへ、その工事を見物に行った。工事を—といったところが、ただトロッコで土を運ばんする—それがおもしろさに見に行っただのである。

とこ

トロッコの上には土工がふたり、土を積んだうしろにたたずんでいる。トロッコは山を下るのだから、人手を借りずに走ってくる。あおるように車台が動いたり、土工のはんてんのすそがひらついたり、細い線路がしなったり—良平はそんなけしきをながめながら、土工になりたいと思うことがある。せめては一度でも土工と一緒に、トロッコへ乗りたいと思うこともある。

トロッコは村外れの平地へ来ると、自然とそこに止まってしまう。と同時に、私たちは、身軽にトロッコを飛びおりるが早いのか、その線路の終点へ車の土をぶちまける。それから、こんどはトロッコを押し押し、もと来た山の方へ登りはじめる。良平はそのとき、乗れないまでも押すことさえできたらと思うのである。

※「トロッコ」 芥川 龍之介

(一) 良平がトロッコや土工にあこがれている様子が書いてあります。

「土工になりたいと思う」のほかに、二カ所さがして、マスがびったりうまるように書き出しましょう。

緒	せ
に	め
、	て
ト	は
ロ	一
ッ	度
コ	で
へ	も
乗	土
り	工
た	と
い	一

と思う

こ	乗
と	れ
さ	な
え	い
で	ま
き	で
た	も
ら	押
✕	す

と思う

あくたがわりゅうのすけ
 芥川 龍之介の
 作品を読んでも
 よう。「くもの糸」
 「杜子春」「鼻」
 などがあるよ！



(二) トロッコが下るときスピードがあって音が聞こえてきそうな文章があります。そのまま次のわくの中に書き写しましょう。

い	土	あ
た	工	お
り	の	る
、	は	よ
細	ん	う
い	て	に
線	ん	車
路	の	台
が	す	が
し	そ	動
な	が	い
っ	ひ	た
た	ら	り
り	っ	、

☆ マスを正しく使って、ていねいな字で書き写しましょう。

春はあけぼの。やう
やう白くなり行く山ぎ
は、すこしあかりて、
むらさきだちたる雲の
ほそくたなびきたる。

る	た	し	白	春
。	る	あ	く	は
	雲	か	な	あ
	の	り	り	け
	ほ	て	行	ぼ
	そ	、	く	の
	く	む	山	。
	た	ら	ぎ	や
	な	さ	は	う
	び	き	、	や
	き	だ	す	う
	た	ち	こ	

あなたの感じる春らしい
ものは何かな？



春は明け方がよい。だんだん白くなっていく
山ぎわの空が、少し明るくなって、紫むらさきがかった
雲が細くたなびいているのがよい。

夏は夜。月のころはさ
らなり、やみもなほ、ほ
たるの多く飛びちがひた
る。また、ただ一つ二つ
など、ほのかにうち光り
て行くもをかし。雨など
ふるもをかし。

か	の	た	の	な	夏
し	か	、	多	り	は
。	に	た	く	、	夜
雨	う	だ	飛	や	。
な	ち	一	び	み	月
ど	光	つ	ち	も	の
ふ	り	二	が	な	こ
る	て	つ	ひ	ほ	ろ
も	行	な	た	、	は
を	く	ど	る	ほ	さ
か	も	、	。	た	ら
し。	を	ほ	ま	る	

夏は夜。



夏は夜がよい。月のころは言うまでもないが、
月のない闇夜やみよでもやはり、ほたるがたくさん飛びかっ
ているのはよい。ただ一びき二ひきと、かすかに
光りながら飛んでいくのも、しみじみとしてよい。
雨などふるのもよいものである。

☆ マスを正しく使って、ていねいに書き写しましょう。

秋は夕ぐれ。夕日のさして山のはいと近うなりたるに、からすのねどころへ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど、飛びいそぐさへあはれなり。まいてかりなどのつらねたるが、いと小さく見ゆるはいとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音など、はた言ふべきにあらず。										
ら	音	入	く	の	は	つ	く	に	て	✕
ず	な	り	見	つ	れ	な	と	、	山	秋
。	ど	果	ゆ	ら	な	ど	て	か	の	は
	、	て	る	ね	り	、	、	ら	は	夕
	は	て	は	た	。	飛	三	す	い	ぐ
	た	、	い	る	ま	び	つ	の	と	れ
	言	風	と	が	い	い	四	ね	近	。
	ふ	の	を	、	て	そ	つ	ど	う	夕
	べ	音	か	い	か	ぐ	、	こ	な	日
	き	、	し	と	り	さ	二	ろ	り	の
	に	虫	。	小	な	へ	つ	へ	た	さ
	あ	の	日	さ	ど	あ	三	行	る	し

秋は夕ぐれがよい。夕日が差して、山にとても近くなったところに、からすがねぐらに行こうとして、三羽四羽、二羽三羽などと、急いで飛んでいく様子までしみじみとしたものを感じさせる。まして、雁かりなどが列を作っているのが、とても小さく見えるのは、たいへん味わい深いものだ。日がすっかりしずんでしまつて、風の音や虫の音などがするものも、言い表しようがなくよいものだ。

この「枕草子」を書いた清少納言と同じ、平安時代中期に活やくした女流作家に紫式部がいるよ。紫式部の代表作と言えば「源氏物語」だね！



☆ マスを正しく使って、ていねいに書き写しましょう。

冬はつとめて。雪のふ

りたるは言ふべきにもあ
らず、しものいと白きも、
またさらでもいと寒き
に、火などいそぎおこし
て、炭もてわたるもいと
つきづきし。昼になりて、
ぬるくゆるびもていけ
ば、火おけの火も白きは
いがちになりてわろし。

き	て	に	た	い	ら	し	た	❌
は	い	な	る	そ	で	も	る	冬
い	け	り	も	ぎ	も	の	は	は
が	ば	て	い	お	い	い	言	つ
ち	、	、	と	こ	と	と	ふ	と
に	火	ぬ	つ	し	寒	白	べ	め
な	お	る	き	て	き	き	き	て
り	け	く	づ	、	に	も	に	。
て	の	ゆ	き	炭	、	、	も	雪
わ	火	る	し	も	火	ま	あ	の
ろ	も	び	。	て	な	た	ら	ふ
し。	白	も	昼	わ	ど	さ	ず	り

冬は早朝がよい。雪が降っているのは言うまでもない。霜が真っ白なもの、
またそうでなくても、とても寒いときに、火などを急いでおこして、炭を
持ち運ぶ様子もたいへん冬らしい。昼になって、寒さがやわらいでくると、
火桶の中の火も白い灰が多くなってきて、よくない。

「枕草子」は、作者の清少納言が心に感じたことを自由に書き記した
随筆だよ。清少納言は、この作品の始めに、四つの季節それぞれに
ついて、自分の思いをつづっているのだね。他にも、こんなことを
書いているよ！

うつくしきもの。瓜にかきたるちこの顔。
かわいらしいもの。ウリに描いた子どもの顔。

